

1. 活動報告（事務局 記）

—7月31日（金）水車通水式の準備として、草刈り、神事用の祭壇などの用意を行いました。また、親子自然観察隊の行事のために、テントなどを用意しました。会員11名と北部支援の岡崎さんが参加されました。

—8月1日（土）水車の通水式は、9時より来賓者の挨拶と延命祈願の神事を行い、水車への通水を行い、無事に水車の通水を開始しました。参加者は、会員19名、親子自然観察隊（親18名、子21名）、来賓のアスワン山荘河本さん、永山酒造永山会長、水車工事のK&B 綿部さん、厚東商会月城さん、宇部環境コミュニティ浮田理事長、宇部市環境政策課（林課長他4名）、市民センター（松谷さん、岡崎さん）、地元の一般参加者5名です。その後、親子自然観察隊は水棲動物の観察を行いました。須賀河内川の沢登り組とビオトープの観察組に分かれ、観察を行い、捕まえた生き物の同定をして、元の場所に戻しました。

—8月15日（土）～20日（木）新型コロナウイルスに関わる活動対策としてのマスク着用やソーシャルデスタンスを図る等の一環として個人個人二俣瀬地区内会員によって草刈り作業・水車回転調整（水路掃除等）をしていただきました。

—8月22日（土）コロナ対応のため希望者12名の会員が参加し、観察路・法面の除草、除去草の撤去および焼却作業を行いました。また作業後、二十周年記念行事の段取り、更新パンフレットの構成、水車の不具合の事項を協議しました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎行 事

—8月29日（土）維持活動・草刈り（駐車場・須賀河内川一部）

—9月6日（日）維持活動（草刈り）

—9月13日（日）親子自然観察隊（秋の昆虫）

—9月26日（土）維持活動（草刈り、稲刈り準備）

3. 来訪者の声

今回はありません。

4. 会員の声 「2020年度ビオトープ内での環境学習会（二俣瀬小学校）」（管 哲郎 記）

7月27日（月）二俣瀬ビオトープ内において二俣瀬小学校3年・4年生生徒12名、引率の先生2名を受け入れ、環境学習会（生物観察授業）を行いました。原田会長を通し、学校側より管が相談を受け、この日の観察会となりました。

担任は玉井先生で、学校側として年2～3回の現地学習会を行いたいとのことでしたが、今年はコロナウイルス騒ぎもあり春の観察会は行えず、残りは秋（9月～10月）にもう一度行いたいとのことでした。

観察会は9:30～10:45まで行いました。開始前に危険なことや行動について話をしておきましたし、服装は長そで・長ズボン・長靴と決めておきましたので、生徒たちは準備ができていました。梅雨の真ただ中、曇り空でしたが、湿地やため池周りにはトンボ類も多く決行しました。10時に小休止しましたが、あいにく小雨模様となりました、生徒たちは全くお構いなしで小雨に濡れながら昆虫採集に夢中でした。事前にビオトープの「ミニ昆虫図鑑」を作成し学校側に提出していただきましたので、生徒たちは「ミニ図鑑」を見ながら各自の採集した虫たちの名前を調べていました。

あっという間に終了の時間が訪れ、生徒たちは名残惜しそうに帰ってゆきました。しかし給食の時間が近づきおなかもすいたようで、先生の号令通り帰ってゆきました。また秋の環境学習が待っていますので、その時を楽しみにするように伝えておきました。



環境学習授業（昆虫採集）



フィールドでの活動



5. 親子自然観察隊「水棲動物観察」

①須賀河内川の観察（関根 雅彦 記）

今年は再建なった水車の通水式に引き続いて須賀河内川の観察を行いました。コロナ問題にもかかわらず、親子ともども20名以上の盛況です。野外活動とは言え、三密に注意して順番に川に入ります。今年の梅雨明けは直前の7月30日、まだ川の流量も多く、冷たい水に歓声があがります。一方増水で流されたのか、魚影は少なめ。横から合流がある最初の岩底部でいつもはヨシノボリが捕れるのですが、今年はなかなか取れません。ようやく小さなものが1尾とれただけ。メダケのトンネルを抜けて最初の堰へ、今年は父滝に負けない迫力で、子供たちも大喜び。堰を登ると増水で堆積した砂底が続くトロ部。いつもは水際の草の下で大量にヌマエビや稚魚が捕れるのですが、やはり少なめです。それでもカワムツ、ドンコ、サワガニやヌマエビ、いろいろなヤゴが捕れました。父滝が近づくと、砂がたまったところや深く掘れたところなど例年とは違った川の様相。ハイライトの父滝は、昔は滝の左岸側をロープを使って登っていたのですが、近年右岸側のロープ無しで登れるルートが開拓され、今年は右でも左でも、思い思いの場所から水しぶきの中どんどん登っていきます。落ちてても楽しく、もう慣れたものです。母滝も、勢いよく流れる水の中、慎重に足場を探して突破し、砂底のトロ部を経て薄暗い溪流部へと入っていきます。このあたりでは、小さなヨシノボリ、大きなカワムツ、スジエビ、カワニナの他、まだあまり大きくないので確かではないですが、オイカワと思われるものも捕れました。例年より深くなった落水部の深みで大人も子供も水を楽しみながら、ゴールしました。ビオトープへの帰り道では、さっそく来年の川登りを楽しみにする声も聞かれ、案内する側としても楽しくまたやりがいのあるイベントでした。ただ、捕れた魚種は先述のように多いとは言えず、またビオトープ側でも上述のもの以外に捕れたものはありませんでした。梅雨直後のためだと思いたいですが、少し気がかりです。今後は魚種を増やす取り組みにも繋げていけたらと思います。

梅雨明けが長引き、昨日の7月31日によりやく山口県も梅雨明けとなりました。それでも直前まで雨模様の天気が続き、川の水量もいつもより多く、水温も少し低めのように川登りは寒くないかと心配していましたが、今日は幸いにも晴れ、気温も30℃~32℃と薄い雲が張っていたにもかかわらず、やっと暑い一日になり最高のお天気に恵まれました。

9時~9時半までは、ビオトープのシンボルでもある大水車再建完成における通水式と延命祈願祭が行われましたので、川の探検は9:30~11:00まで行われました。コロナ騒ぎで部屋の中に閉じ込められていた子供たちは、ビオトープに来ると大喜びで魚などをすくいとったり溪流の冒険を楽しみました。魚類は少なかったのですが、いろんな水生昆虫をゲットしていました。11:30より採集した魚や水生昆虫の名前調べが行われました、そのあと採集した魚類などは元の川に返してあげました。

②ビオトープでの観察（管 哲郎 記）

今年は残念ながら緊密な集まりができません、いつもならおソーメンを食べたり、スイカをいただいたりと楽しい食事会があったのですが、今年はお菓子のお土産で我慢していただきました。早く今の怖い状況がなくなるとよいですね。

梅雨時の毎日は、曇りや雨で気温は25℃前後、今日は急に30℃を超えて、大変暑い日になり、熱射病などが心配されましたが、幸い無事に事故もなく行事を終えました。

今年はビオトープ創立20周年となり、水車の修理を急ぎようやく通水式を行うことができました。しかし、そのための準備が大変で、スタッフの方々の努力や心痛は大変でした。

何をするにも雨やこの暑さが襲いました、無事乗り切ってこられて通水式を終えたことは会員一同喜びに堪えません。皆様、ご苦労様でした！



川登に参加できない隊員は保護者同伴でビオトープ内の水路や池でメダカ・ドンコ・タイコウチ・コオイムシ・エビなどを採集して楽しみました。



居残った隊員もため池で採集しました



魚の名前を調べました

【通水式の様子】



魚は川に放しました



原田会長のあいさつ



通水式の様子

6. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 (管 哲郎 記)

(54) ハナムグリ *Eucetonia pilifera* (コガネムシ科)

樹木の樹液に集まるコガネムシによく似た、草花の花に多く集まるのがハナムグリですが、樹液をなめる種もあります。ハナムグリには10種類前後の仲間がいます。よく間違えるのがアオハナムグリとコアオハナムグリですが、ハナムグリに比べ白い斑紋が多いので区別できるかもしれません。また、金属光沢のあるカナブンに比べハナムグリには薄い毛が生えており、見た目も違いますので区別がつくと思います。

4月～7月によく見られ、雑草の花に吸蜜に現れますので草原の花を観察すると見つけやすいでしょう、しかし、山口県ではコアオハナムグリが多いようです、ハナムグリはやや少ないのかもしれませんが。



ハナムグリ



アオハナムグリ



コアオハナムグリ



クロハナムグリ

引用・参考文献

福田晴夫ほか、2005. 昆虫図鑑 採集と標本の作り方. pp. (株)南方新社. 鹿児島.
海野和男、2013. フィールドガイド身近な昆虫識別図鑑. 254pp. 誠文堂新光社. 東京.

7. 会よりの連絡事項

1) 記念イベント第2段通水式が無事目度く終わりました。今後は継続回転を永久的に眺めるようになりましたが、はや10日も経過しましたがいまだ順調に回転（ゆっくりと・少量の水量で・平均回転で）が調整できておりません。

会員や地区内の方々から色々意見や注意もありますが、簡単ではありません、早く回せることは水量を増やせば可能ですが軸受けの給油を頻繁に行い続けなければならず、調整中です。毎月の活動日に給油（グリスアップ）で延命が図れればと努力要請することになります。

2) 親子自然観察隊に参加されている東岐波の舘野聡司さんがつくる会の会員になられました。今後の維持活動の強力な若手となります。

8. 編集後記（若林 正治 記）

2020年は新型コロナウイルスにより多くのイベントが中止になっている。オリンピックですら延期にしたウイルスは雑草達には、まったく効果がない様で彼らは元気に伸び続けている。ビオトープではその雑草達の面倒さえ大変なのに、コロナウイルスからも逃げ回らなければならない。コロナウイルスから逃げるとは？人と関わらないのが一番なのか？確かにビオトープの蛙や昆虫からは感染リスクは無い様に思える。特に暑い中「蝉」はコロナに関係なく超元気に叫んでる。（ただし自分には多少の耳鳴りが有るので何処から何処までが蝉なのか疑問に思う時も有るが・・・）まあ～色々考えても雑草達は元気なので、次回活動もひたすら草刈りをしようと思う。